



KYODO ARCHITECTS & ASSOCIATES

2023

Architecture

INDEX

未来へ向けて「建築」がすべきこと
・・・02

TOPICS

精神科病院と隣接医療施設の有機的な再構築

医療福祉センター倉吉病院
[精神科病院 増築・改修] ・・・03

地域と共にある家

デンマーク INN つつじヶ丘
[高齢者施設 移転新築] ・・・05

WORKS

三井病院
[一般病院 増築・改修] ・・・07

揖保川病院
[精神科病院 増築・改修] ・・・08

さいたま市民医療センター
[一般病院 増築・改修] ・・・09

山梨県立北病院
[一般病院 増築] ・・・09

デンマーク INN 小田原
[高齢者施設 改修] ・・・10

アクティビティセンター・コミュニティホールさいふ
[障害者支援施設 増築] ・・・10

社外報 2023 Vol.24

発行年 2023年 春

発行 株式会社 共同建築設計事務所

編集 高橋良江 小林千絵子

高瀬 敦 本常利恵

未来へ向けて「建築」がすべきこと

代表取締役 鈴木 慶治

この1年も様々な出来事が起こり、多くの喜びと共に多くの大切なものが失われました。栄枯盛衰はものごとの常ですが、あらためて人間社会の危うさを感じた一年でした。その象徴的な出来事はやはりロシアによるウクライナ侵攻です。北朝鮮の度重なるミサイル発射も相まって、平和ボケの日本でも自衛隊の予算を大幅に増やさなければならない判断を迫られています。

誰も戦争など望んでいないのに、抗戦すれば国民の被害は大きくなることはわかっているのに、敵を作り戦う支度をせざるを得ないのでしょうか？

またロシアへの経済制裁に円安が手伝って原油が高騰し、電気代をはじめあらゆる物価が驚くほど上昇しています。東日本大震災時、原発の停止により暗くなった街を見て、「もう電気の無駄遣いはしない」と誓ったはずなのに…。アンコントロールな原発は動かせないからといって、当面は火力発電でまかない再生エネルギーによる発電への転換を進めていくはずだったのに、国から電気節約のお願いが出され、結局、当面はと云いながら原発に頼る構図に戻りつつあります。

戦後復興から高度成長期を経て今日までの、ごく短時間に築いた現在の我が国の制度や価値観は、やはり軽薄であると言わざるを得ません。それでも、目の前の危うい「平和」「幸福」を維持し、「欲望」満たすためにその軽薄な活動を継続せざるを得ないのでしょうか。今も社会は経済成長を目標とし、これを妨害する他の人間を排除しようとしています。これは人間の理性を超える「性（さが）」としか言いようがありません。その結果、人間が環境を危うくし、自らが生き辛い地球に貶めています。

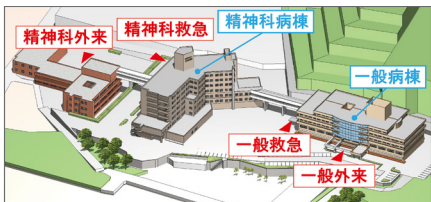
しかし電気のなかった長い歴史の中で、先人の工夫によって素晴らしい「文化」が形成され、それは現在も継承され我々の財産になっていることも確かです（残念ながら争いの歴史も途絶えることはありませんでしたが…）。

我々が扱う「建築」は築かれる時代の「人間」そのものです。理性、経済、欲望で満たされています。建築が「性」の結晶であるならば、我々は「理性」をもってできるだけ様々な意味で地球に負荷を与えることのない「健康」な建築を心掛けなければなりません。先日のサッカーワールドカップで、日本サポーターの観客席や選手のロッカーの「後片付け」が世界に評価されていました。我々が作った建築もゴミ（廃墟・遺物）にしてはいけません。自然の摂理を利用した再生可能の原則を利用したものづくりをすることで豊かさや愛情を感じることができる環境をつくり、適正な使い方・メンテナンスがなされ的確に修繕・改修を加えることで、長く健康的に使い続け、寿命を迎えたら自然に返すことができる。そのような建築プロジェクトを、皆様と共に計画しなければならないと思っています。容易なことではありませんが、一つ一つこの課題を乗り越えていくことで、未来が開けるものと信じています。

(2022年12月20日記)



法人が運営する様々な施設が点在する敷地周辺の全景



再構築前



増築棟新設、既存棟改修完了後

鳥取県の中部地域において、精神科病院と一般病院を併設する医療法人が、精神科病棟の再編成と共に両院でその機能の共有・連携を強化し、地域医療全体を担い、展開するための再構築を行ったプロジェクトです。

増築を一部行い既存棟のポテンシャルを十分に活かし設備を含めた内部全面改修をすることで建物の長寿命化を図りました。

2021年に核となる増築棟（中央棟）が完成し（註1）、その後約1年をかけて既存の精神科病棟（倉吉棟）の全面改修を行いました。分散していた精神科外来、精神科救急、一般救急、一般外来を近接させ、新旧エントランスから迷うことなくアプローチできるような

形態とし、増築部分と改修部分が違和感なく一体化するような空間づくりとしました。既存棟内にエレベーターを追加することにより、縦動線の整理、セキュリティの改善も図りました。

■各病棟の明確な特徴づけ

増築により病棟面積を増やし、各病棟の明確な特徴づけを行いました。

認知症治療病棟	ゆとりのある空間 介助や観察のしやすさ
急性期治療病棟	状態に応じた多様な病室 精神科救急への移行を視野
精神療養病棟	閉鎖・開放の特徴づけ 変化への対応
精神一般病棟	患者の高齢化・ 合併症への対応

急性期治療病棟では、保護室・強化個室・準強化個室・4床室といった患者

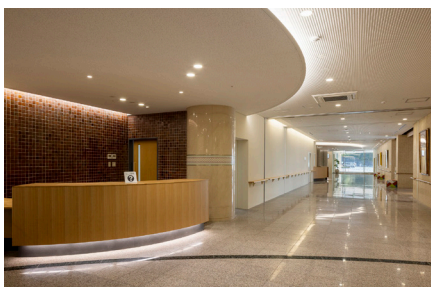
の状態に応じて環境を変えることができる病室構成とし、増築棟の独立部分を活かし、ストレスケア病棟としています。改修されたスタッフステーションカウンターは、オープンにもクローズにもすることができ、患者に寄添った穏やかな見守りを行うことができます。

■ユニットの形成と個別性の重視

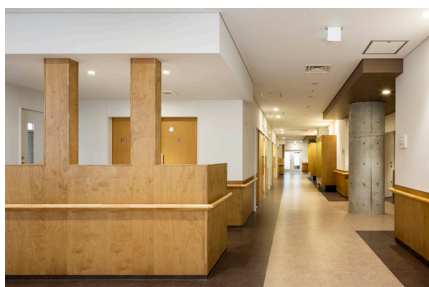
改修棟の4床室は、既存の整形な4床室形状を活かしつつベッド間に新たに間仕切り壁を設け、患者のプライバシーや個の空間づくりに配慮しています。広さは変わらずともベッドや身の回りの家具配置を好みに応じて配置しやすくしました。また、中央棟病棟と同様に病室群の身近に洗面や便所等の水廻りをコンパクトにまとめています。

■多様な居場所と社会復帰への工夫

病棟内には、食堂に加えてデイスペースや造作ベンチ等、病室以外の小さな居場所を各所に設け、病棟の一步外に自然な交流を誘発する仕掛けを用意しました。病棟外には、社会復帰に



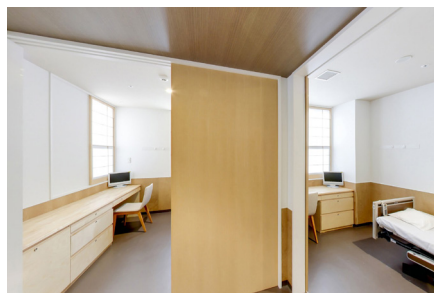
増築棟と一直線につながった改修棟玄関ホール



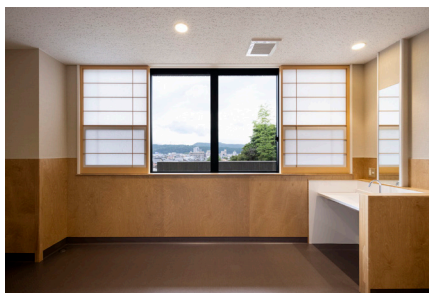
病室群に近接された水廻り等の生活スペース



スタッフステーションから改修棟食堂への見守り



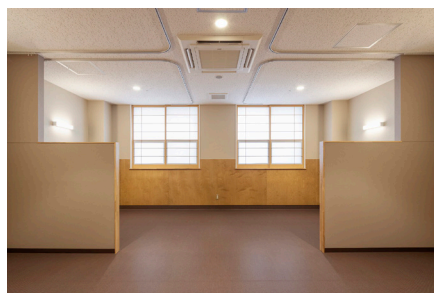
個室的空间を確保した増築棟個室型4床室



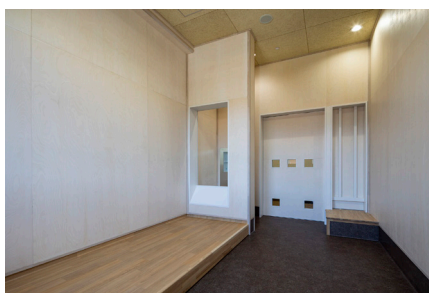
増築棟の個室としつらえを揃えた改修棟個室



改修棟スタッフステーション※
↑(オープン時)
↓(クローズ時)



ベッド間に間仕切り壁を設けた改修棟4床室



小上がリスペースのある改修棟保護室



向けてより積極的な活動を支えるデイケア、生活機能訓練室、作業・運動療法室等が配置されています。

■変化への対応と環境づくり

全体面積に余裕を持たせたことで、変化に対応できるゆとりある構成になりました。個別浴や機械浴等を複数用意でき、プライバシーに配慮し、入浴方法の選択肢も増やしました。一方で、患者空間以外に職員食堂やラウンジ等のスタッフスペースも充実させ、潤い

のある病院づくりを心掛けました。

増築工事スタートとほぼ同時にコロナ禍となり、改修工事完了までほぼリモートでの打合せのみとなりましたが、地元の設計事務所の協力を得ながら思いを込めて監理しました。未だ制約の多い状況下ですが、イベント等が再開され、まちとシームレスにつながり、地域に開かれた病院となることを期待しています。

□建築概要

- 建築主：社会医療法人 仁厚会
- 所在地：鳥取県倉吉市
- 病床数：240床(倉吉病院のみ)
- 構造規模：鉄筋コンクリート造一部鉄骨造
地上4階(中央棟増築)
地上7階(倉吉棟改修)
- 延床面積：4,464㎡(中央棟増築)
12,006㎡(倉吉棟改修)
- 竣工年月：2021年5月(中央棟増築)
2022年3月(倉吉棟改修)
- 撮影：SATO PHOTO、所員(※)

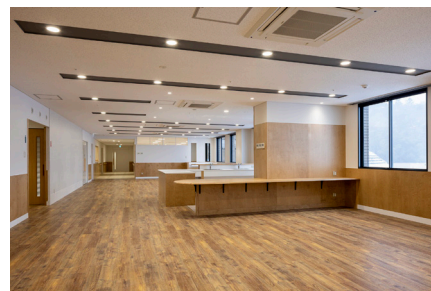
註1：増築棟については、社外報2022で紹介しています



病棟廊下壁面に造作したフレーム型ベンチ※



窓越しの緑が豊かな改修棟ディスプレイスペース※



病棟外に設けられた作業療法室



病棟端部のテレビ視聴スペース※



既存棟との調和を図りながら新しさを加えた増築棟



西側外観 メイン玄関へのアプローチ

2年前、特定医療法人研精会の「山田病院」が「東京さつきホスピタル(2021 社外報掲載)」として生まれ変わり、その移転した跡地に介護付き有料老人ホーム「デンマーク INN つつじヶ丘」が完成しました。府中、深大寺、調布、小田原で展開している「デンマーク INN」シリーズは、デンマークが掲げる高齢者福祉3原則：①生活の継続性②自己決定の尊重③残存能力の活用をベースに「INN (小さなホテル)」のように快適な生活が送れる場を提供する、というコンセプトで運営されています。

私たちが「つつじヶ丘」の設計・監理の機会をいただいた際、今回もその理念を大切に引き継ぎ、高齢になり介護が必要になっても住み慣れた地域の中で楽しく穏やかに暮らせる場をつくることを目指しました。

つつじヶ丘駅から徒歩5分ほど、東京さつきホスピタルにも近接した恵まれた立地です。

周辺の住宅地に馴染むよう、やわらかな雰囲気を持つタイル張りの外観とし、入居室にバルコニーによる深い軒

をつくることで、近隣住民と入居者双方のプライバシーに配慮し、居住環境の質を高めました。

入居室は長く住み続けられるよう、介護度に合わせて便所の扉を開閉し介助しやすくするなどの工夫をし、限られた面積を最大限活用できるようにしました。各フロアにはメインのリビング・食堂以外に、小さなリビングや談話コーナーを用意し、居室以外にも思い思いの場所で過ごすことができます。1階にはリハビリやサークル、職員の研修や地域のイベントなど多様な活動に対応できる、明るく開放的な多目的ホールを、4階には車いすの方でも安全に外部で土いじりなどを楽しめる屋上テラスを設けています。

介護するスタッフの方々にとっても、見守りやすい空間構成とし、入浴やトイレの介助の負担を少しでも減らせる工夫を重ねました。

デンマーク INN つつじヶ丘が、入居される方ひとりひとりが生き生きと暮らし続ける場となり、地域を照らす存在となることを確信しています。



周辺マップ



南側外観



東側外観



エントランスホール
木質材料を多用し暖かみのあるインテリアとした



食堂
食堂・キッチン・リビングがフロア中央を貫き南に抜ける構成
左側はコンシェルジュカウンター



南側の庭に面した1階多目的ホール
入居者の日常的なレクやイベント、スタッフのミーティングなどに使われ、地域の利用も想定している



サブリビング
フロア内に居室以外の居場所をいくつか設えた



眺めのよい4階テラス
安全に外部での活動を楽しめる



入居室の玄関
室名表示と室内のクロスの色を揃えた5種類をランダムに配置



入居室（トイレの扉開時）

居室のトイレは自立度の高い方は戸を閉め個室化し、介助が必要な方は戸をオープンにして介助スペースを確保
コンパクトな居室だがスペースを有効に使えるよう工夫した



入居室（トイレの扉開時）

居室のトイレは自立度の高い方は戸を閉め個室化し、介助が必要な方は戸をオープンにして介助スペースを確保
コンパクトな居室だがスペースを有効に使えるよう工夫した



東京さつきホスピタル
「創造農園まつり」（特定医療法人研精会と社会福祉法人新樹会の合同開催）
東京さつきホスピタルとデンマーク INN つつじヶ丘を会場とし、地域の方々が大勢訪れ賑わった



デンマーク INN つつじヶ丘

□ 建築概要

建築主：JR 西日本不動産開発株式会社
運営：特定医療法人 研精会
所在地：東京都調布市
施設内容：有料老人ホーム
（サービス付き高齢者住宅）
構造規模：鉄筋コンクリート造一部鉄骨造
地上4階
延床面積：3,994㎡
戸数：80戸
竣工年月：2022年5月
撮影：増田寿夫写真事務所



南側外観(左側本館/右側増築棟)↑
既存建物の要素(開口部形状、仕上げ材料の種類や色)を増築棟側へ取込み、一施設として認知してもらえるよう計画しつつも、内部の機能と呼应した水平横長の窓を設けることで、新しい建物としての外観を特徴づけている

←増築棟南側外観

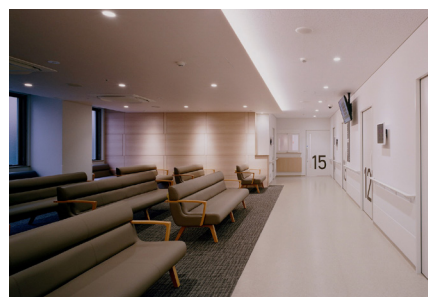
川越市の中心部にあり、長きにわたり地域医療の中核として貢献を続けている救急指定病院の増築計画です。第7次埼玉県地域保健医療計画における病床整備において、50床の地域包括ケアの増床許可を受けたことから、病棟の増床に合わせて、医療機能のさらなる拡充を図っています。

外来エリアの拡張、手術部門の増室整備をはじめとし、血液浄化センターの新設を行っています。既存棟とは各階フラットで接続することで、往来に支障のない計画としました。

病棟は一つの看護単位となる構成です。それにより増築棟側の病室と既存棟側のスタッフステーションとの距離が長くなるため、増築棟側へサブのスタッフステーションを設けました。加えて、汚物処理室、器材庫、収納庫を増築棟側にも分散的に設けることで

看護動線がコンパクトになるように配慮しています。4床室ではベッド間に患者用ロッカーを配置することで、療養空間に個性を持たせました。また、医療ガス端末を未使用時には隠すことのできる木製の医療用コンソールとすることで、空間に落ち着きを生み出しています。少しでも建物が治癒に寄与できるよう心がけてのことです。

本増築計画は増築の2期目であり、2007年には病院に隣接する廃業した映画館を病院建物として改修する設計に携わりました。本計画により本館を中心とした3棟の建物で構成することになりました。外観デザインは一施設として認識してもらえるよう既存建物の構成要素を取り込んでいます。観光地に近接していることもあり、街並みに馴染みつつ、医療施設として安心感のある建物づくりを目指しました。



外来待合



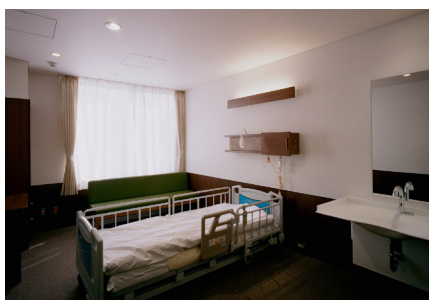
血液浄化センター



スタッフステーションと各4床室前に設けた洗面カウンター・PPE収納



4床室



特床室

□建築概要

- 建築主：医療法人 豊仁会
- 所在地：埼玉県川越市
- 病床数：一般83床・地域包括ケア50床
- 構造規模：鉄筋コンクリート造一部鉄骨造
地上7階
- 延床面積：8,490㎡(増築：3,077㎡)
- 竣工年月：2022年8月
- 撮影：増田寿夫写真事務所



新第1病棟(右)とメインアプローチ、改修既存棟(左奥)

揖保川病院は、兵庫県西部の中核を担う精神科病院です。外来診療・管理部門と100床の病棟からなる新第1病棟の増築と既存棟改修を行い、創立60周年となる2022年12月に完成を迎えました。医療ニーズの変化に応え、増加する高齢者・認知症患者にも対応すべく、患者の個別性を大切にしながら最新の精神医療を地域に届けるため、機能拡充と療養環境の改善を行いました。

誰もが安心して訪れやすく地域に帰るための病院として、外来待合は、プライバシーに十分配慮しつつ開放的な空間とし、既存病棟1階は全面改修してリハビリと地域交流の拠点として整備し、治療から社会復帰までの機能をメインアプローチの周りに集約しました。

揖保川に沿う増築棟の先端は地域の建物で用いられてきた焼杉外壁を思わせ

る金属板シリンダーとし、地域に親しまれる建築を目指しました。

病棟では高齢化の進む入院患者への配慮や早期退院を実現するための設えとして、個の空間を大切にする病室と、認知症患者でも自力で向かう事を促すわかりやすいトイレ・水廻りを病室の先に設けています。敷地形状を生かして揖保川の景観を取り込み、多様で選択性のある居場所を設けました。

□建築概要

- 建築主：医療法人古橋会
- 所在地：兵庫県たつの市
- 病床数：100床（増築）
230床（既存改修）
- 構造規模：鉄筋コンクリート造
地上4階（増築）
- 延床面積：5,526㎡（増築）
- 竣工年月：2022年4月（増築）
2022年12月（既存改修）
- 撮影：増田寿夫写真事務所
所員（※）



わかりやすいトイレ・水廻りと談話コーナー



感染症にも対応した豊かな療養環境の病室



メインアプローチに対して開放的な外来待合



既存病棟を全面改修した地域交流ラウンジ※



揖保川に沿う特徴的な外観の新第1病棟



外観(増築後)



外観 ピロティ(増築前)



血管造影室



移設拡張した化学療法室

2009年3月に新設病院として現在地に開院してから10年余り経ち、着実に地域に根差した医療を提供している病院の、医療機能の拡張を目的とした増築計画です。

主たる増築内容は以下の通りです。

- ・年5,000件を超える救急搬送への受け入れ態勢を充実させるための救急部門の拡張。
- ・撮影件数が伸びている血管造影室の増設。
- ・がん診療指定病院であり、年々増加する抗がん剤治療のための化学療法室の移設拡張。

この病院は、災害拠点病院のため免震構造を採用しており、増築は容易ではありません。そのため新築時に、後々増築の可能性が高い救急・放射線部門の脇に、免震層に含まれるピロティを設けて計画しておき、今回はそのエリアを活用して増築しています。

□建築概要

建築主：社会医療法人
さいたま市民医療センター
所在地：埼玉県さいたま市
病床数：340床
撮影：鉄建建設

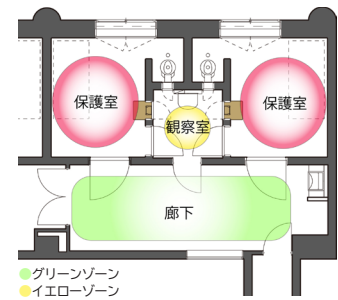
構造規模：鉄筋コンクリート造一部鉄骨鉄筋コンクリート造
免震構造 地下1階 地上6階
延床面積：29,835㎡
(増築340㎡ / 改修約300㎡)
竣工年月：2022年4月(増築)
2022年7月(改修)

山梨県立北病院

既存精神科病院の増築工事です。スーパー救急病棟の再編にあたり、保護室8床を計画しました。設計中に新型コロナ患者が急増し、県立の精神科病院として、感染症患者の受け入れを視野に入れる必要が出てきたため8室の内よりハードな設えの4室に観察室を設けました。これは、通常は患者とスタッフの対話や食事の配膳を、廊下を通行する他の患者等を気にすることなく行える場として計画されたものですが、感染症患者が入院した場合には、防護具の脱着・手指洗浄・消毒が行えるイエローゾーンになります。

廊下には、通常時は全開放できる扉を2室毎に設け、病棟全体を閉鎖することなく運用できる計画としています。感染症に備えつつ、普段の使い勝手に支障がないよう配慮しました。

8床の増築ですが、これにより慢性的な保護室不足が解消され、病室機能強化につながったと考えています。

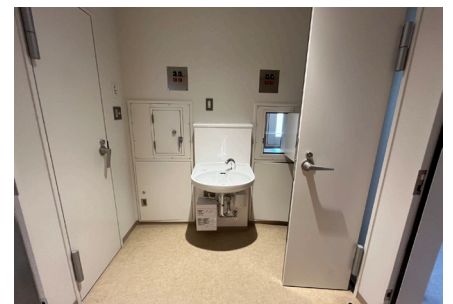


病棟平面図

- グリーンゾーン
- イエローゾーン
- レッドゾーン



保護室



観察室



病棟外観

□建築概要

建築主：地方独立行政法人
山梨県立病院機構
山梨県立北病院
所在地：山梨県韮崎市
病床数：188床(増築8床)

構造規模：鉄筋コンクリート造一部鉄骨造
地下1階 地上2階
延床面積：13,992㎡(増築264㎡)
竣工年月：2022年4月
撮影：所員



クリニックの待合



改修前 有料老人ホームのリビング



クリニック・通所リハの玄関

竣工して20年経った有料老人ホーム1階の入居室10室とリビングを、内科クリニックと通所リハスペースに改修しました。

パインの羽目板と間接照明によりやわらかい雰囲気を創出するなど、内装を一新しました。棟をつなぐ渡り廊下途中にある通用口を専用の玄関に改修し、アプローチし易いよう外構も整えました。

クリニック・通所リハのオープンにより、地域の高齢者のさらなる拠り所になっていくものと思います。

□建築概要

建築主：特定医療法人 研精会

所在地：神奈川県小田原市

施設内容：有料老人ホームの一部を
内科クリニック・通所リハに改修

構造規模：鉄骨造 地上4階

延床面積：4,991㎡（改修300㎡）

竣工年月：2022年3月

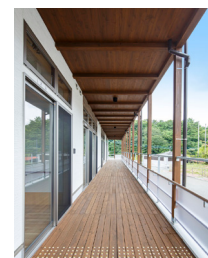
撮影：所員



北側鳥瞰全景



2階 多目的室



2階 外廊下

障害者支援施設宰府園増築工事です。現況3,306㎡の宰府園の南側敷地6,066㎡を購入し、「さいふ」を皮切りに増築していく計画です。

1階は、現行通所30名+入所45名の施設を増設し、通所入所の分離と感染対策ができるようなゆとりを持たせた計画としました。

2階は、位置的に施設群の中央にあり、南側敷地と2階で連結することで

入口から最短のアクセスとなるため、各種集会、研修室、利用者活動室、災害時避難所等多目的室としました。

増築計画全体の方針としては、低層木造建築とし、外観を統一しています。漆喰真壁をイメージとした緩勾配屋根で集落的ランドスケープをデザインしています。障がい者のストレスフリーのためには、気積の大きさと木使いの空間が効果的と実感しているが故です。

□建築概要

建築主：社会福祉法人 宰府福祉会

所在地：福岡県太宰府市

施設内容：生活介護・就労継続支援B型
研修室

定員：1階活動室20名・作業室15名
2階研修室108席

構造規模：木造 地上2階

延床面積：556㎡

竣工年月：2022年6月

撮影：ティエムフォート



www.kyodo-aa.co.jp

□本社 〒160-0008 東京都新宿区四谷三栄町 4-10 TEL 03-3359-6431 FAX 03-3359-6449
□東北支社 〒980-0022 仙台市青葉区五橋 1-4-24 TEL 022-722-0915 FAX 022-722-0917
□関西支社 〒533-0033 大阪市東淀川区東中島 1-17-18 TEL 06-6195-3621 FAX 06-6195-3622
□九州支社 〒812-0013 福岡市博多区博多駅東 3-5-16 TEL 092-473-7370 FAX 092-481-3298

